『前立腺センター開設しました』

桐生厚生総合病院では、今年４月より泌尿器科外来に『前立腺センター』を開設しましたのでご報告します。この外来の目的は、最近増えている前立腺の病気に対し前立腺専門外来を開くことで、スムースな紹介、診察の流れを作ることです。

みなさん前立腺はご存じですか？

前立腺とは男性だけにあるクルミ大の臓器で、膀胱の下で尿道を取り囲んでおり、年齢とともに肥大することが分かっています（図１）。

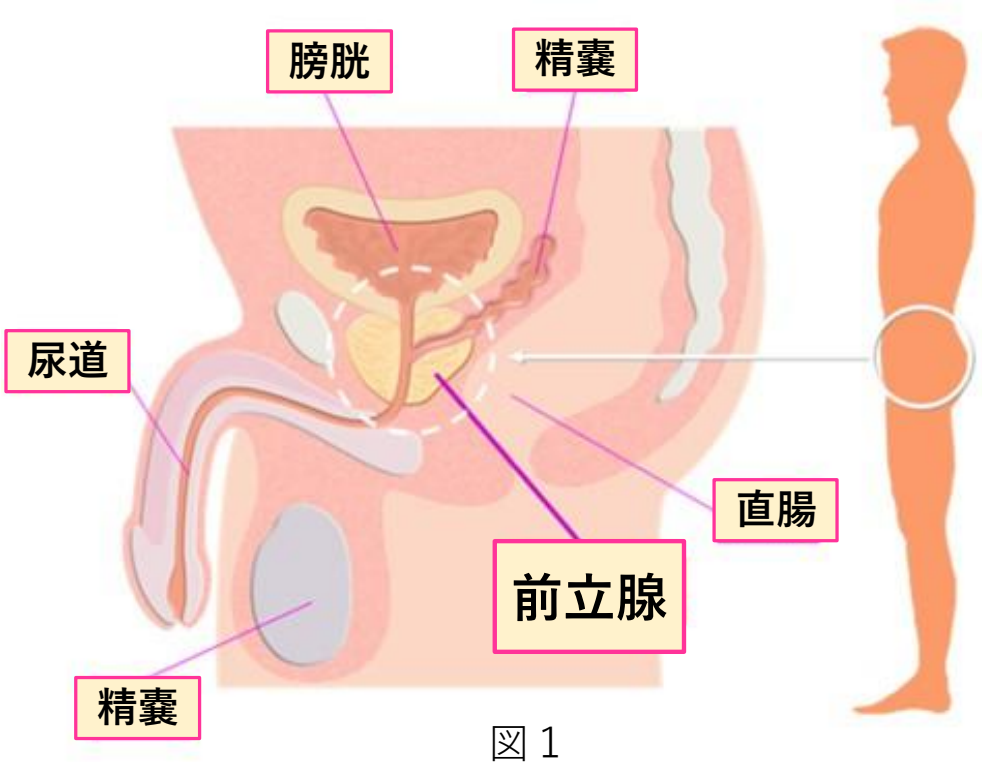

図１

前立腺センターでは前立腺疾患全般を扱いますが、主に前立腺がん（疑い）、と前立腺肥大症が対象になります。

前立腺がんはほかの臓器のがんと比較し進行はゆっくりですが、初期には自覚症状がほとんどないため、発見が遅れることがあります。そのため早期に発見し、適切な治療を行うことが大切になります。

前立腺がんが疑われ受診されたら、腫瘍マーカー検査、直腸からの触診検査、エコー検査、必要があれば MRI 検査を行った上でがんの疑いの強さを確認します。疑いが強い場合は『前立腺生検（組織検査）』を検討します。がんと診断されたら進行程度を確認した上で治療方針を検討していきます。早期がんに対しては基本的に手術治療、放射線治療をお勧めしています。

・手術治療

手術支援ロボット『ヒューゴ』を使用して前立腺摘除術を行います。開腹手術と比較して出血が少なく回復が早いというメリットがあります。

・放射線治療

放射線科と連携し、放射線照射を施行します。外来通院で治療を受けることができ、1日1回週5日、治療期間は約1ヵ月半程度です。

・薬物治療

高齢の方や、臓器転移など進行がんの方が対象になります。薬物で男性ホルモンを低下させることでがんの進行を抑えます。

・無治療経過観察

進行が比較的遅いと思われる早期前立腺がん患者さんの場合、即時治療せずに病状を経過観察することもあります。

前立腺肥大症は前立腺の病気のなかで最も多くみられる良性の病気です。前立腺が肥大し尿道を圧迫することでの排尿障害を引き起こします。受診されたら排尿障害の自覚症状の問診をし、尿の勢い、実際の残尿量を検査した上で治療方針を相談します。

・薬物治療

圧迫された前立腺部尿道の緊張をとる薬、前立腺そのものを縮小させる薬などがあります。

・手術治療

薬物治療が有効でない場合に提案します。いずれも尿道からの内視鏡治療で、前立腺組織を切除する方法（TUR-P）、前立腺に水蒸気を注入し組織を退縮させる方法(WAVE)などがあります。

前立腺センターの初診外来は月・水・金の午後です。この時間帯では基本的に紹介専用とし待ち時間の短縮を図っています。ただ泌尿器科一般外来（月～金・午前）でも前立腺疾患の診察をしていますので、ご都合により安心して選択して頂いて結構です。これからも皆様の健康を支えられるよう頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

【泌尿器科診療部長兼前立腺センター長　上井崇智】